

# 成熟した美意識で ジャケットを着こなしてほしい

談 中野香織 (服飾史家)

服飾史家・エッセイスト。  
明治大学国際日本学部特任教授。  
軽やかな語り口による著書多数。  
最新刊は「愛されるモード」(中央公論新社)。  
「タンデイズムの系譜 男が憧れた男たち」  
(新潮社)。ブログも必読。  
<http://nakanoakari.coollog-nifty.com/>



Hugh Jackman

ヒュー・ジャックマン / 40歳

「最もセクシーな男」を包む  
黒ジャケットの装い

「ピープル」誌が「最もセクシーな男」に選んだこと、そして出演映画のキャンペーン来日で、ぐっと日本での知名度が上がったジャックマン。黒スタイルでもリラックスした雰囲気醸成するのはその人柄ゆえ? 主演作「ウルヴァリン X-MEN ZERO」も公開中

©AFLO



艶感をたたえたジャケットスタイルで颯爽と歩く  
ミラノのビジネスマン。ブラウンの使い方が秀逸

そもそも、スーツは本来上下共地ではなかったということをご存じでしょうか。紳士の装いが貴族的な美意識下にあった1850年以前は、ジャケット、パンツ、ベストのアンサンブルが異なる生地で構成され、トータルで美しくまとめたものがスーツとしての役割を果たしていました。素材や色を変えて組み合わせるぶん、そこには高い美意識とバランス感覚、そして装いに注意を払うという余裕が必要であり、それを完成させることが一つ



余裕と自信があるから  
シンプルな合わせでも  
サマになる。スパイシ  
ーな遊び心を忘れずに





着回し力の高いグレーのチェックジャケットをデニムに合わせる。黒ニットがポイント



人生を楽しむ達人、ミラノのシニョーレ4人衆。特に、淡めのチェックジャケットをさらりと羽織る左のシニョーレの着こなしに注目

のステイタスとして認められていたのです。しかしその後、スーツはビジネスシーンのユニフォームとして上下共地のものへと便宜的に変化を遂げます。装うことがより楽になったその変化は、ある意味スーツのカジュアル化だったともいえるでしょう。そして新たな美意識が生まれたのは、1930年代の大不況時代。心理的不安から多くの人がスーツを着て姿勢を正していた時代でしたが、実はスーツがいちばん発達したのはこの時期で、ただ身なりよくスーツをまとうのではなく、パーソナリティとしてのパワーを見せつける華やかなスーツが生まれたのです。それはさしずめ、暗雲立ち込める時代にあっても保守一辺倒にならない、「遊び」から漂う信頼感といったところ。あえて派手に装うことで余裕のある姿勢を示していた、と見ることもできるのです。

そして今、時代はまた上下共地のスーツではなく、別のパンツを合わせるジャケットスタイルに注目しつつあります。お仕着せのスーツではなく、自分の感覚で選び、自己を表現し楽しむ。それはスーツを共地で着ていなかった時代の貴族的な美意識にも似たものがあるかもしれません。が、けっして原点回帰といったものではなく、現代的な紳士の装いに対する美意識が成熟してきているということなのではないでしょうか。

信頼感や誠実さを表現しつつ、でもちよつとしたユーモアや精神的余裕も同時に表現できる。トライ&エラーを繰り返し返してきた今だからこそ、それが演出できるはず。時には大胆な遊びが、信頼の根拠にもなりえます。くしくも不況時代。そんな今だからこそ、余裕のジャケットスタイルが映えるのではないのでしょうか。



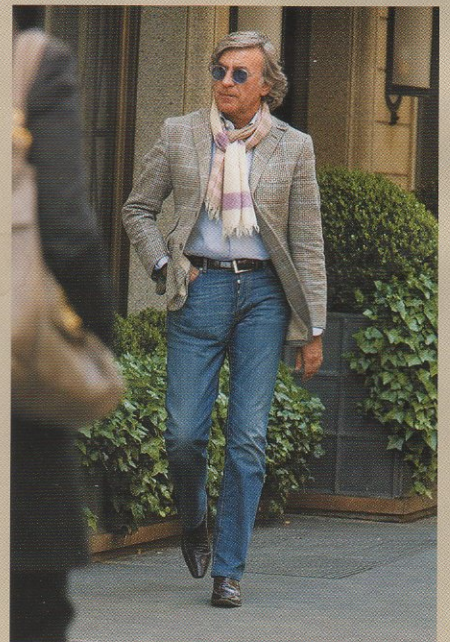
Daniel Craig

チェック  
ジャケット  
JK

ダニエル・クレイグ / 41歳

ベーシックなチェックジャケットで、さり気なく立体感を演出する

上質な白シャツにノーブルな光沢のシルクのタイ。そしてベスト。一見フラット、しかし奥行きが感じられる英国的ジャケットニスタイルには品格が漂う  
©AFLO



ジャケットの水色を拾ったスタイル。さり気なく若々しさを表現するワザは大いに見習いたい。髪の色まで計算している？